

国際シンポジウム

「食料安全保障を考える：グローバル・パートナーシップの構築に向けて」

Revisiting Food Security: Towards the Realization of the Global Partnership

2009年3月5日(木) 9:30~17:45

会場： グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 3F 「白雲・慶雲」

主催： 外務省

※日・英・ポルトガル語同時通訳付、参加無料

昨年夏に史上最高レベルを記録した食料価格の高騰により、世界の飢餓・栄養失調人口は更に増大し、10億人に達しつつあります。同時に、世界最大の食料純輸入国である我が国では、今後の食料の安定的な確保について懸念する声も聞かれます。こうした内外の関心の高まりを受け、今回外務省では、これまで別々の問題として議論されがちであった世界の食料問題と我が国自身の食料安全保障の問題を同時に取り上げ、今後の課題について議論する国際シンポジウム「食料安全保障を考える：グローバル・パートナーシップの構築に向けて」を開催いたします。

本シンポジウムには、モザンビーク、マラウイ、イエメン、ブラジル等の閣僚級の代表のほか、国内の著名な有識者や、国連機関、NGO、民間セクター等で活躍するハイレベルの専門家がパネリストとして出席予定です。我が国と世界の食料安全保障について改めて考える機会としたいと考えているところ、皆様ふるってご参加ください。

【プログラム】

9:30 基調講演（外務省代表）

9:45 第1セッション

「今次食料危機の展開と国際社会の対応」

11:00 第2セッション

「危機の教訓—飢餓や栄養失調に苦しむ人々のために為すべきこと」

14:20 第3セッション

「農業投資の促進—海外農業投資のベスト・プラクティスと官民パートナーシップのあり方」

16:15 第4セッション

「我が国と世界の食料安全保障—今、日本が為すべきこと」

【パネリスト】

リペンガ・マラウイ経済計画開発大臣

ニヤッカ・モザンビーク農業大臣

アル＝ヒムヤリー・イエメン通産大臣顧問

マルタ伯農牧研究公社研究官

ナバロ国連HLTF調整官

トゥールUNICEF南アジア地域事務所長

スティーブソンWFP政策・計画・戦略部長

ハラムFAO貿易政策課長

柴田丸紅経済研究所所長

松村三井物産穀物油脂部長

近藤読売新聞編集委員

橋本ADRAJapan事業部長

本間東京大学農学生命科学研究科教授

荘林学習院女子大学教授

大島JICA副理事長

窪田JICA農村開発部審議役

本郷JICA中南米部嘱託

小風農林水産省大臣官房審議官

■参加方法

参加申込書にご記入の上、FAXあるいはEmailにてお申し込みください(定員に達し次第、募集を締め切ります)。

■申込み先・事務局

「食料安全保障を考える」シンポジウム事務局(担当: 案浦^{あんのうら})

TEL: 03-3263-3850/ FAX: 03-3263-1264

Email: food-mofa@bilingualgroup.co.jp

■内容に関するお問い合わせ

外務省経済局経済安全保障課 (井上・五味・大江)

TEL: 03-5501-8339

Email: foodsymposium@mofa.go.jp